

やさしい野菜づくり

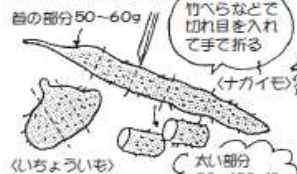


ヤマイモ

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培						○						

○ 植えつけ ※ 収穫

種イモの準備

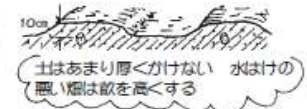


病害に冒されていない健全な種イモを手し、適当な大きさに分割する

ナガイモ



基肥として種イモと種イモの間に油粕・化成肥料を適量あてる



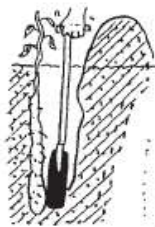
植えつけ

パイプ栽培の場合



収穫

イモに沿って深い穴を掘り、下の方を折らないようにしていかに収穫する



支柱立て 3~4本合わせてとで結び



畝きわら

追肥



追肥は株の間にばらまく

いちょういも



育て方のポイント

- ①種いもの準備**
 - イモを切断する 首の部分は小さめ50~60g、それ以下の太い部分は80~100gにする
 - 切ったイモは切り口が白くなる程度に、風通しの良い所で陰干しする
- ②畑の準備**
 - 水持ちが良く、地面の肥えた所で栽培する 圃場に石灰を施し出来るだけ深く耕起する
 - 水はけの悪いところは、高畝にする 乾きやすい圃場では作付けを控える
- ③植えつけ (パイプ栽培)**
 - 株間25~30cmに種芋を植え付ける
 - パイプ栽培の場合は、開口部上約10cm離れた所に植えつける 畝内棒を立て発芽点に沿わず パイプの角度は約30度位とする
 - 種芋は5cm地中に入れ、上から5cm覆土をかける 地下のパイプは10cm離す
 - (通常栽培) パイプ栽培同様10cmの覆土をかける 種イモの間に化成肥料、油粕を施す
- ④管理**
 - 支柱や竹は2m間隔に立てる 7月から的高温期には、敷きわらをする
 - 支柱や竹は合掌仕立て、ツルを右回りに誘引していく
 - 9月下旬よりムカゴが出来る 労力があればムカゴは取ってしまい、地下の芋に養分を集中させる

ワンポイント

- 風通しを良くする為、ツルを広げるように誘引する
- 2~3年毎に圃場を変えると、収量が安定する

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基肥	追肥					備考
		①	②	③	④	⑤	
苦土有機化成特A801	150g	50g	50g	50g	50g	50g	
なたね油粕	100g						
粒状苦土石灰	100g						

※第1回目は発芽が揃った頃、以降3週間1回施用するが以降、地下のイモを太らせる為、8月下旬以降は散布しない